

# 羽はたけ! こどもたち

大堀 寛人

④

けた口で、綿のように舞う

回ります。

スを繰り返す乗り越えるこ

雪の「試食」を始めます。

こどもたちは、素手で触

とから、はぐくまれるので

横では、新雪に足跡を付け

ると涙が出るほどの冷たさ

す。

て走り回る遊び、雪のマッ

も忘れ、次々と手袋を脱ぎ

寒いときは暖房でぬくぬ

トの上ででんぐり返しする

捨てて、雪と格闘し始めま

くした部屋で、暑いときは

遊びも始まっています。雪

す。夢中で遊ぶ楽しさが、

冷房の効いた部屋で過ごす

を相手に「遊び」の想像力

雪の冷たさを吹き飛ばすパ

ー。便利で快適な生活が、

はどんどん広がります。

ワーを生み出すのです。

こどもたちの体に副作用を

雪合戦も盛り上がりま

この時期、太田川の土手

もたらしています。体温を

す。こどもたちは、先生の

沿いの散歩では、こどもた

調節する機能が低下し、低

背後に回り、首筋に雪を入

ちの間から自然と「影踏み」

体温のこどもが増えています。

れようと「ワー！」と追い

の遊びが始まります。くっ

す。体が季節感を感じられ

掛けてきます。後ろ向きに

きりと長い冬の影法師。「先

なくなっているのです。

なって犬かきのように雪を

生、僕の影踏んでもいいよ

天候に左右されず、外に

飛ばして先生が応戦する

ー」と言いながらも、踏ま

飛び出し、肌で季節を感じ

と、今度は散り散りに逃げ

れないように駆け出した

るのが「ちゅーりっぷ流」。

と、今度は散り散りに逃げ

り、「ここだと僕の影踏ま

冬であれば、凜とした空

と、今度は散り散りに逃げ

れないよ！」と建物の陰に

気、冷たい雪を何度も体感

と、今度は散り散りに逃げ

隠れたり…。

することが、本物の記憶と

「先生、食

べていいよね

！」。屋外に

飛び出したこ

どもたちは、

空に向けて開

## 寒さに負けず

# 感性磨く 銀世界プレー

して、こども  
たちの細胞に  
刻み込まれ、

こんな遊びを通して、こ  
どもたちは寒くても、体を  
温める知恵を身に付けま  
す。たくましさは、「冷た  
さ」「寒さ」などのストレ  
豊かな感性をはぐくむと考  
えるからです。

(ふれいすくーる・ちゅー  
りっぷ＝広島市西区＝園  
長)



「寒さなんて何のその!」。廿日市市のもみの木森林公園で先生を交えて雪合戦に熱中する4、5歳児たち (園提供)